

## M35a 活動領域内微小黒点の消長とサージ活動

北井礼三郎 (京大理)

1998年11月初旬に種々の活動現象を示した NOAA8375 についての、飛騨天文台ドームレス太陽望遠鏡での観測結果について報告する。ここでは特に、11月6日に発生した2種類のサージ現象について、 $H\alpha$  像とGバンド像による観測結果を中心に報告する。なお、Gバンド像は、リアルタイムフレームセクタ2を用いて撮影された。

11月6日の領域およびサージ現象の特徴をまとめると以下のようになる。

- (1) NOAA8375 は、先行主黒点の外周を取り巻くような形で微小な黒点が鎖状に分布しており、これらの微小黒点の消長・移動が顕著であった。
- (2) 上記微小黒点の分布する2箇所ですージ活動が活発であった。そのうちのひとつは爆発的にガスが放出される大規模なものであり、他のひとつは小規模なガス放出が断続的に繰り返されるものであった。
- (3) 大規模なサージについては、Gバンド像で2-3個の微細な輝点が認められた。

これらの特徴をもとに、2種類のサージ現象について、その磁場構造、時間変化、光球運動を考察し、サージ発生の機構について議論する。